自分ですすめる『学びの一歩』

小5社会科『国土の気候の特色』　名前（　　）

ステップ1（先生の一言）

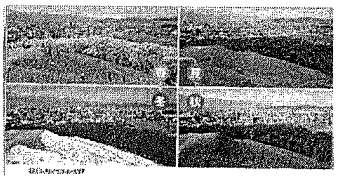
・教科書 42～43 ページの写真や資料をヒントに日本の気候の時期や場所による違いを調べよう。
・気候とは，その地域の天気，気温，風などの長い年月の平均的な状態のことです。

・桜がさきはじめる時期が早いのはどこだろう。

・教科書 44～45 ページをヒントにつゆや季節風，日本の降水量について調べよう。
・降水量とは，雨だけでなく，雪や霜なども水として計算し，その量を㎜で示したものです。
・季節による降水量の違いの理由を調べよう。
・日本列島の中央には何があったかな。

ステップ2（自分でやってみよう）

1. 教科書 42 ページの『長野県松本市の四季』の写真を見て，気付いたことを書こう。そして，日本の気候の特色を考えよう。



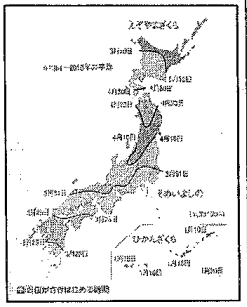
写真から気付いたこと
・春に、さくらがさいている。
・秋には、木々がこう葉している。
・冬に、雪がふっている。

日本の気候の特色は・・・

四季の変化が見られること。

2. 教科書 43 ページの 3 月の『流氷』『スキー場』『桜』『海開き』の写真を見て，気付いたことを書こう。そして，桜がさきはじめる時期が場所によって違う理由を考えよう。

写真から気付いたこと　〈例〉
同じ3月なのに、雪が積もったり、海に入ったり
あたたかさが違う。



桜がさきはじめる時期が違うのは・・・
日本の気候が場所によって違うから。

3. 次の言葉について説明しよう。

『つゆ』とは・・・　6月中ごろから7月ごろにかけて、雨が多くふる時期のこと。

『季節風』とは・・・　季節によってふく方向が変わる風のこと。

4. 日本の降水量についてあてはまる言葉に○をつけよう。そして□に理由を書こう。

日本では，夏には特に（太平洋側・日本海側）で降水量が多く，冬には（太平洋側・日本海側）で降水量が多い。

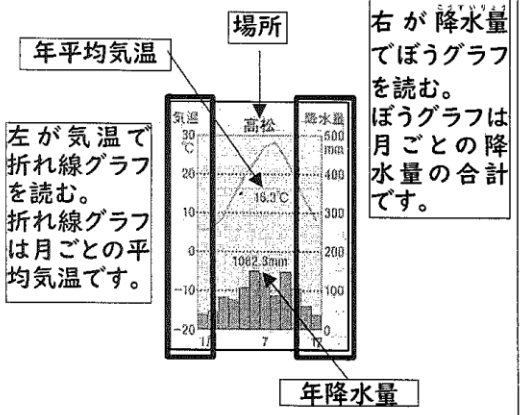
それは・・・
夏には南東（太平洋）から、冬は北西（ユーラシア大陸）から季節風がふくから。

自分ですすめる『学びの一歩』

小5社会科『国土の気候の特色』　名前（　　）

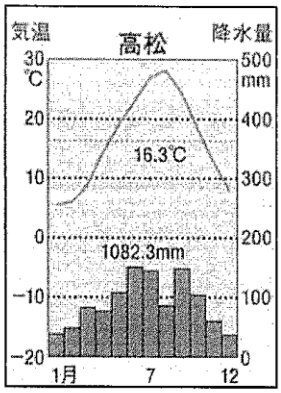
ステップ1（先生の一言）

・教科書 46 ページのまなび方コーナーをヒントにグラフを読もう。



ステップ2（自分でやってみよう）

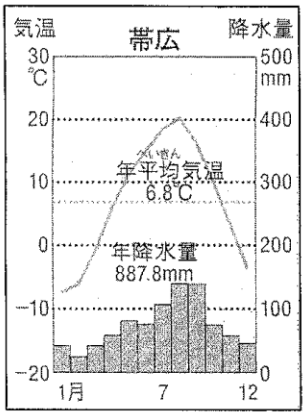
5. 教科書46ページのまなび方コーナーをヒントにグラフを読もう。

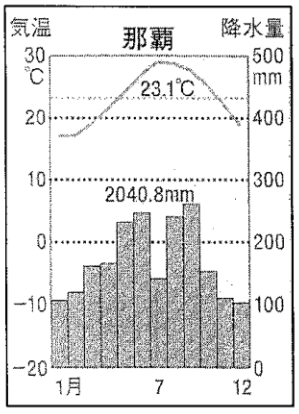


①場所は（ 高松 ）市
②1年間の平均気温は
（ 16.3 ）℃
③1年間の降水量は
（ 1082.3 ）mm
④一番気温が高いのは（ 8 ）月
⑤10月の降水量は
約（ 100 ）mm

ステップ3（学びを生かしてチャレンジ！）

6. 日本には大きく 6 つの気候（『北海道の気候』『日本海側の気候』『中央高地の気候』『太平洋側の気候』『瀬戸内海の気候』『南西諸島の気候』）があります。『北海道の気候（帯広）』と『南西諸島の気候（那覇）』をくらべて，気候の違いについて気付いたことを書こう（教科書 46 ページ）。





気付いたこと

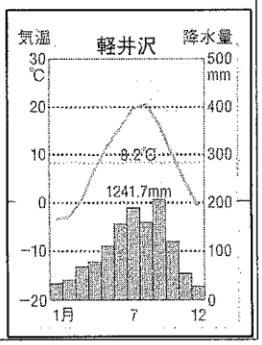
・北海道の気候は、冬が長く、気温も低いです。他の地域よりも降水量が少ないです。

・南西諸島の気候は、気温が高く、雨が多いです。冬もあたたかいです。

7. どうして『中央高地の気候（軽井沢）』では，平均気温が低いのでしょう。その理由を書こう。

平均気温が低いのは・・・

土地の高いところにあるからです。



Q：標高が 100m 上がると気温は約何度下がるでしょう？